

「大崎耕土」の巧みな水管理による水田農業システムが 世界農業遺産への国内審査通過（日本農業遺産にも認定）

昨年9月、世界農業遺産認定を目指し、大崎地域1市4町（大崎市・色麻町・加美町・涌谷町・美里町）と、宮城県や地域内4つの農協、NPOなどの関係団体で組織する「大崎地域世界農業遺産推進協議会」が、農林水産省に申請していた「大崎耕土」の巧みな水管理による水田農業システム。

その審査結果が3月14日に公表され、世界農業遺産として、国から国連食糧農業機関（FAO）へ認定申請する地域として承認されると同時に、本年度から始まった日本農業遺産に認定されました。大崎地域を含め、今回世界農業遺産の国内審査を通過したのは3地域で、日本農業遺産には8地域が選定されました。

今回承認されたのは、「やませ」による冷害や洪水、渇水などの厳しい自然条件を、巧みな水管理と土地利用で克服し、豊かな水田と湿地生態系、伝統的な農文化を今に受け継ぐ大崎地域の農業であり、「大崎耕土」の巧みな水管理による水田農業システム」と称して申請したものです。世界農業遺産の認定を契機に、先人から引き継いだ地域の資源（宝）を再認識し、農産物のブランド化や六次産業化、都市と農村の交流、農村の景観と文化の継承、次世代の担い手の育成を進めていきます。

平成26年度に行った1度目の申請では、残念ながら承認を得ることはできませんでしたが、その直後から再挑戦の準備が始まりました。

これまでに、専門家を招いての勉強会や、世界農業遺産シンポジウムの開催など、1市4町の住民の皆さんと共に理解を深めながら、内容を丁寧に見直し、昨年9月の申請に至りました。



▲3月14日の審査結果を受け、記者発表に集った地域の首長たちとアドバイザー（宮城県農林水産部次長）

今回の申請には、全国19地域から応募があり、昨年11月には、書類選考による一次審査で10地域にまで絞り込まれました。今年1月には、世界農業遺産等専門家会議により、大崎地域内を実際に巡っての現地調査が行われ、申請内容が実地で確認されました。

係者4人が農林水産省へ赴き、審査機関へプレゼンテーションを行ってきました。今後、協議会では、世界農業遺産認定に向けて、国連食糧農業機関へ提出する申請書の英訳や農業システムの保全と活用に関するアクションプランの策定など、国や県、関係団体と連携しながら大詰め作業を進めることとなります。



▲1月20日に行われた世界農業遺産等専門家会議による現地調査の様子（古川地域洪井）

2017 3月の主な出来事									
4日	●大崎市地域自治組織活性化事業交付金公開審査会	13日	●第6回おおさき観光写真コンテスト表彰式 ●おおさき宝大使藤岡奈穂子さん4階級制覇達成	14日	●大崎地域の世界農業遺産認定に係る国内審査通過と日本農業遺産への認定が決定	16日	●大崎市消防団小型動力ポンプ付積載車交付式 ●大崎市総合教育会議	18日	●首都圏大崎連絡協議会設立10周年記念総会
24日	●話し合う大崎公共交通シンポジウム	28日	●(株)セブン・イレブン・ジャパンとの高齢者等地域見守り協定締結式	30日	●宮沢地域振興協議会とのおおさきパートナーシップ（地域自治組織戦略体制整備モデル事業）協定調印式	▲3月4日に行われた地域自治組織活性化事業交付金審査の様子			

Discover Osaki

地域発 お・ら・ほ・の・ま・ち

自分の住む地域を「おらほ」というと、親しみや愛着を感じませんか。おらほの地域づくり、おらほの隠れた名所、おらほの美味しい特産品、おらほの伝統のまつり、おらほのイベント……。そんな、愛してやまない「おらほの地域」を発信します。



田尻発

大崎市で初めての国の重要文化財指定へ「木造千手観音坐像」

田尻地域で、12世紀後半から約800年にわたって守り伝えられてきた木造千手観音坐像が、3月10日に開催された国の文化審議会で、重要文化財指定について文部科学大臣へ答申されました。重要文化財の指定は、国の官報公示をもって正式決定となりますが、市としては初めて、県内では9つ目の重要文化財（美術工芸品・彫刻）となります。

田尻地域の小松地区に、平安時代に建立された「小松寺」の本尊として伝来したもので、明治初頭に廃寺となった後は、地元の「お薬師様文化財保

存会」の皆さんによって、大切に守り伝えられてきました。平成15年2月に旧田尻町の指定有形文化財となり、大崎市誕生に伴い市の指定有形文化財となりました。さらに平成22年4月には、宮城県の指定有形文化財となっています。

今回、指定された理由としては、「中尊寺金色堂に安置される奥州藤原氏三代に関わる諸像、とりわけ二代基衡のために造られた一群と類似する作風がうかがえることから、12世紀後半に平泉の寺院の造仏に携わった仏師の手になるとみられる。二重まぶたの目や、背面で吉祥天や女神のように髪をたわませて結い上げる髪型が珍しく、注目される。院政期（平安後期、白河・鳥羽・後白河三代の上皇による院政が行われた時代）における東北地方の仏像製作の様子を知るうえで重要な遺品である」とされています。

現在、木造千手観音坐像は、今回の指定のため、東京の国立博物館で保管されていますが、5月後半には市へ返還される予定ですので、市民の皆さんにお披露目する日も近いようです。

今後は、お薬師様文化財保存会と共に、市の宝として、後世に大切に守り伝え、市のさらなる魅力アップにつなげていくこととしています。



▶千の手は、どんな人でも漏らさず救済しようとする限りない慈悲の心の現れ。このようなしっかりとした姿で、800年もの間、守り伝えられてきたことは、奇跡的なことと言えます

岩出山発

自慢の料理を持ち寄って楽しく講座を締めくくる

3月2日、西大崎地区公民館が主催する「いきいき女性講座」の締めくくりとして「持ち寄りビュッフェパーティー」が行われました。

地元食材を使った参加者自慢の料理を、7月の講座で自ら作成した愛着あるお皿に盛り付けて持ち寄り、互いの料理を味比べし

たり、レシピを交換したりと楽しいひと時を過ごしました。

その後、本年度の講座を修了した証として、手作りの卒業アルバムが授与されたほか、すべての講座に参加した皆勤賞の人も紹介され、「本当に学校を卒業するみたい。来年も頑張ろうね」と晴れ晴れとした笑顔をみせていました。



▲手作りしたのお皿と、自慢の料理を紹介し合う皆さん